

大崎のナシ畑

文・小西 一三
 絵・小西 由紀子

大

崎地区はかつては男鹿・南秋で最大のナシ産地でした。今は点在するだけです。が当時は一面に「大崎ナシ」の畑が広がっていたといえます。今もナシ栽培を続ける三浦良一さん(83)、アヤ子さん(81)夫婦に当時の様子をお聞きしました

5月の初め、ナシの花が満開の頃は本当にきれいだっただなあ

俺

の家は潟がすぐそばにあったもんだから、風が吹けばモグが寄ってきたし、朝は沖に向かう船の櫂の音で目が覚めたもんだ。家は代々、半農半漁。田んぼが少しとナシ畑があった。漁の方は25歳の頃までは一人で刺し網漁をしていたども、干拓で止めた。そのまま少ない農地で百姓を続けても将来性はないと思って俺は土建の仕事始めた。だから田んぼとナシ畑の仕事は、ほとんど母さんに任せっきりだった。

母さんは昭和28年に井川町から嫁に来たども、その頃は大崎で百三十軒ほどがナシの栽培をしていて、秋田県でも「大崎ナシ」の産地として有名だった。ここは砂地でナシの栽培には適していたんだべな。親父もやっていたから百年以上の歴史はある。ナシの栽培は手間がかかるもんだから、1軒で6反(約60a)がいいところ。それも1人では絶対無理。常に2〜3人の手伝いのオナゴたちに来てもらっていた。当時は手間賃が安くて、朝の8時から夕方5時まで働いてもらって、米2升(約3

kg相当の年間賃。今の時代では信じられないくらい安いすべ。

俺は棚作りや冬から春にかけての剪定作業など力仕事はしたども、手間のかかる受粉や摘果、袋かけなどは母さんの担当。多い時は7万袋もかけたから、なんぼ大変だったか分かるすべ。5月の初めになれば白い花がいつせいに咲いて、その景色の美しさは今でも忘れられないな。丘に上がれば下は一面ナシの白い花、その奥にはキラキラ光る潟が広がっていた。

それが今では後継者がいなくて三十数軒になってしまった。ナシの木は伐採されて、昔のような景色は見られなくなってしまった。今は土建業を廃業して2人でナシをやっているども、母さんには本当に難儀をかけてしまったなあ。

大崎地区に点在するナシ畑 花の季節が待ち遠しい

